

令和元年度（第8期）

事業報告書

（自 平成31年4月1日 至 令和2年3月31日）

1. 事業概要
2. 助成事業
3. その他の事業

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団

1. 事業概要

公益財団法人 韓昌祐・哲文化財団は、平成 31 年 4 月 1 日（月）に公益財団法人として 8 年目を迎え、本財団の公益目的事業である日本と韓国に関わる文化・芸術・歴史・社会・スポーツ等の分野における学術研究、創作活動、啓蒙活動、実践活動への助成、そのほか日本と韓国に関わる国際交流に対する助成を行なうことになっています。

平成 31 年 3 月 14 日（木）に開かれた平成 30 年度第 4 回理事会でご承認いただきました第 8 期事業計画案に基づいて、第 8 期（平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日）の助成事業を実施しました。

2. 助成事業

(1) 令和元年度の応募状況と選考委員会

今年度も郵送による「郵便申請」の受付のほかに、本財団ホームページから直接申請できる「電子申請」を併用しました。令和元年 7 月 1 日から助成申請書の募集を始め、8 月 31 日に締め切った結果、97 件の助成申請書を受け付けました。97 件の申請書のうち、事務局の事前審査で約半数を落とし、選考委員会の本番に向けて審査対象となったのは 53 件の申請書でした。

この後、選考委員 5 名が 53 件の申請書を約 1 カ月かけて精査し、10 月 26 日（土）開催の選考委員会に臨みました。当日、選考委員会は 10 時に開会し 18 時 30 分まで議論を続け、助成対象候補者を 14 件まで絞り込みました。

平成 29 年度から面接を重視しており、11 月 2 日（土）、11 月 3 日（日）の 2 日間で 14 件の申請者の面接を実施しました。

その結果、令和元年度選考委員会は、個人 3 件、団体 4 件を助成対象候補と選出しました。

なお、令和元年度は選考委員会からも理事長からも、韓昌祐特別助成（上限 500 万円）の推薦は上がりませんでした。

公益財団法人韓昌祐・哲文化財団

～ 令和元年度 選考委員 一覧 ～

高柳 俊男 氏 法政大学国際文化学部 教授 (選考委員長)
(タカヤナギ・トシオ)

金 時文 氏 (株) 東洋経済日報社 編集局長
(キム・シムン)

洪 熒 氏 (株) 統一日報社 論説主幹
(ホン・ヒョン)

五味 洋治 氏 東京新聞 論説委員
(ゴミ・ヨウジ)

金 範洙 氏 東京学芸大学 特命教授
(キム・ボンス)

令和元年度 選考委員会・理事会の結果報告

～ 助成対象候補一覧 ～

分野	名前	研究活動テーマ・所属	
文化	金 承福 (キム スホク)	「作家、出版社、読者が一堂に会す K-BOOK フェスティバル」 K-BOOK FESTIVAL 2020 実行委員会 実行委員長	1,400,000 円
学術	権 泓珠 (コン ヒョンジュ)	「子ども食堂、子どもの居場所づくりの日韓比較研究」 岡崎女子大学 子ども教育学部 教授	1,500,000 円
芸術	金 沙織 (キム サジ)	「サハリン在留韓国人・日本人を撮影、作品化し展示する」 写真家・京都造形芸術大学 講師	2,000,000 円
演劇	鈴木 アツト (スズキ アツト)	「韓国若手劇作家の作品を上演し、日韓交流拠点を作る」 韓国新人劇作家シリーズ実行委員会 実行委員長	1,550,000 円
国際交流	金 鉉哲 (キム ヒョンチョル)	「日韓次世代リーダーの絆形成のための講演会活動」 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授	1,799,000 円
芸術	浅井 信好 (アサイ ノブヨシ)	「日韓協働で優秀振付家を育成、アジアダンス大会を開催」 ダンスカンパニー 黄金 4422BLDG. 代表	2,000,000 円
スポーツ	青木 勲 (アキ イサオ)	「少年柔道交流大会を通じた日韓親善未来プロジェクト」 栃木県日韓親善協会 会長	1,500,000 円
		個人 3 件・団体 4 件	総額 11,749,000 円

(2) 公募の方法について

令和年度の公募広告は7月上旬から8月中旬に、新聞媒体の統一日報、東洋経済日報に公募広告を掲載しました。

またネット・メディアでは、(株)ジェイ・キャストのJcastニュースに、公募広告をアップしたほか、平成29年度と平成30年度の助成受贈者をニュース記事としてJcastトレンドニュースに配信しました。

そのほか、国公立大学、私立大学、日韓に関わる研究機関、諸団体に財団のパンフレットを1400部配布しました。

3. その他の事業

(1) 助成証書授与式

毎年3月に開催されてきた本財団の助成証書授与式は、日韓に関わる助成受贈者の発表の場であり、また駐日大韓民国大使館の大使をはじめ日韓親善協会中央会会長、在日本大韓国民団中央本部団長および民団幹部、在日世界韓人商工人連合会会長および幹部の方々が出席される、日韓両国をつなぐ各界有識者の日韓交流の場になっています。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和2年2月下旬に理事長及び副理事長が協議をして、3月開催の助成証書授与式を延期にしましたが、式典会場である韓国文化院（東京都新宿区四谷）が閉館を続けており、令和元年度の授与式の見通しは立っていません。

(2) 日韓交流レセプション

本財団の助成証書授与式、記念講演会の後、恒例となった日韓交流レセプションが毎年3月に開催されてきました。

このレセプションには過去に助成を受けた(財)韓哲文化財団時代の助成受贈者のみなさん、また日韓に関わっている諸団体の方々が参加され、日韓をテーマに分野の垣根を越えて交流してきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、日韓交流レセプションも延期になっています。

令和元年度の事業報告附属明細書

1	給料手当	8,684,981 円
2	アルバイト給与	37,880 円
3	法定福利費	1,312,056 円
4	会議費	139,830 円
5	接待交際費	132,141 円
6	旅費交通費	617,734 円
7	通信運搬費	204,246 円
8	減価償却費	378,000 円
9	消耗品費	50,908 円
10	公募関係費	5,019,312 円
11	貸借料	324,000 円
12	諸謝金	1,581,464 円
13	図書費	34,149 円
14	助成金	11,749,000 円
15	研修費	14,400 円
16	手数料	19,394 円
	事業費総額	30,299,495 円

事業報告附属明細書の内訳

- 1 給料手当（専務理事と職員の報酬全体の3分の2）
- 2 アルバイト給与（公募関係）
- 3 法定福利費（健康保険料、厚生年金保険料、子ども子育て拠出金）
- 4 会議費（選考委員会、財団ミーティング等）
- 5 接待交際費（理事会・評議員会）
- 6 旅費交通費（助成事業の調査と検証、選考委員、助成対象者面接等）
- 7 通信運搬費（公募関係、広報宣伝、事務局等）
- 8 減価償却費（事務局）
- 9 消耗品費（事務局）
- 10 公募関係費
 - ・助成証書授与式（(有)劇団青年座、(有)ソラ、(株)永明（妻家房四谷本店）、韓国・Kim Joung Hyun 等）
 - ・広告費（(株)ジェイ・キャスト、(株)トエンタ、(株)東洋経済日報、大石デザイン事務所、(株)ページワン）
- 11 貸借料（(株)マルハン）
- 12 諸謝金（理事、評議員、選考委員）
- 13 図書費（事務局）

14 助成金（一般助成）

15 研修費（事務局）

16 手数料（アイワーズ・芦田正裕）